

幼児教育・保育センター主催 2024年度公開講座

今年度、幼児教育・保育センターでは3つの講座を開催いたしました。県内各地から、本学卒業生も含め、多くの方々にご参加いただきました。それぞれの概要は以下の通りです。

①「脳科学から見た幼児教育」講師：村上昇(12月開催)

脳の基礎について、人類の脳の進化や脳機能の研究から示されるデータを基に、脳科学からみた乳幼児期のかかわり方の重要性についてご講話いただきました。村上学長のお孫さんの動画を交えてわかりやすく学ぶことができました。

②「子どもの学びを可視化する保育ドキュメンテーションー子どもとの出会いなおし、子どもが生きる世界から保育のありようを考えるー」講師：山下愛実(12月開催)

ドキュメンテーションについて、山下先生の研究や海外視察に基づく丁寧な資料で学んだ後、各自が持ち寄った写真からのドキュメンテーション作成という演習を行いました。活発な意見交換が印象的でした。

③「発達障がいの基本的な理解と支援～落ち着きのない子どもを中心に～」講師：松田昭憲(1月開催)

主にADHD(注意欠如/多動性障がい)の子どもの行動の特徴、脳の神経伝達について、対応策や支援方法を学びました。子どもとの関わりから導き出された見解など、とても興味深いものでした。

こども家庭庁のスローガンである「こどもまんなか社会」が実現するためには、子どもに関わる多くの大人がこのような学びの場に参加し、知識を身につけ、実践に活かしていくことが求められます。今後も、様々な方面からのご協力を賜りながら、本センターを通じて多くの学びの場を提供していきたいと思ひます。



卒業式・修了式のご案内

令和6年度卒業証書・学位記並びに修了証書授与式を下記のとおり執り行います。

期 日
令和7年3月19日(水)

場 所
宮崎市民文化ホール
開式 10:00



地域 PBL型授業で「人づくり」に 取り組む現代ビジネス科

地域PBL型授業「実践ビジネス演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生たちが地域貢献や地域活性化を目的として、今年度3つの実践的なプロジェクトに取り組みました。

(1) 小学1・2年生のためのプログラミング講座

宮崎科学技術館において、Scratchを使ったプログラミング体験講座を学生たちが企画し、実施しました。小学校低学年の子どもたちに「プログラミングの楽しさ」を体験してもらい、プログラミング学習への関心を高めることで、宮崎における将来的なIT人材の育成に貢献していきたいと考えています。

(2) 三股町の非公認キャラクター(パマさん)の展開

三股町の「住みやすい」イメージを構築・発信するため、学生たちが三股町を応援する非公認キャラクター「パマさん」を発売し、ポスター、シール、自動車ステッカーを作成しました。「地域を盛り上げるために学生の立場で何ができるか」をテーマにし、その地域の「らしさ」を明確にし、地域のイメージを構築し発信する地域ブランディングに取り組んでいます。

(3) 住みよい町づくりのための特殊詐欺防止講座

安心・安全に生活できる住みよいまちづくりをテーマに、「特殊詐欺防止講座」を学生がーから企画しました。寸劇や替え歌を披露し、地域の皆さんに防犯の重要性を伝えつつ、交流を図りながら地域の課題について傾聴しました。地域の皆さんからの反応やフィードバックを今後の活動に反映して参ります。



後援会だより

52



2024年秋の忍ヶ丘祭

宮崎学園短期大学の 今後を考える(その2)

学 長 村 上 昇



平素大変お世話になっており、有難うございます。昨年の後援会だより(2024年No. 50)におきまして、標記のタイトルで書かせていただきましたが、今回はその続きを書きたいと思い、(その2)と致しました。1990年に18歳人口が201万人だったのが、2023年には約半分の110万人にまで減少しました。一方で、大学数は1990年の507校が2023年では1.6倍の810校と増え、全入時代(全員がどこかの大学に入学できる時代)に突入しました。一方で、短期大学は593校が303校と減少し、少子化のあおりを完全に受けています。そのような厳しい中で、本短大が今後どのように生き残るかを真剣に考えなければなりません。

本学では、令和7年度から保育科にキッズビジネスコースが設置され、現代ビジネス科には新たな8コースが誕生します。令和6年度には保育科に3年制課程が新設され、入学者も増えています。このような改組で頑張っている大学は、国からの支援もあります。例えば、文部科学省の令和6年度「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」では、111校の大学・短大

から応募があり、本学を含む45校が選定されました。採択された大学は、すべて何らかの改組を行っている大学・短大です。

さて、時代の急速な変化の中で、本学はどのように変わって行くのでしょうか？まず第1に教育現場が変わるべきです。私達は短大の学生を教育する場合、2年後の卒業時の社会、あるいは5、10年後の社会に通用する学生を輩出しなければなりません。例えば今年度の高校卒業生は「情報」という科目が大学入学共通テストに入った最初の学生です。この「情報」を習って来た学生が、本学に入学して来るわけですから、本学は、この「情報」をどう社会に活かすか？「情報」からどのような新たなビジネスを生み出すか？を考えられる人材育成を目指さなければなりません。そのために設置したのが現代ビジネス科の「情報クリエイティブコース」です。また、本学保育科は「保育士」と「幼稚園教諭2種」の資格が取れますが、将来的に保育と、幼児教育は完全に分けられるはずでず。そのため、高度な幼児教育が可能な幼稚園教諭を輩出する仕組みを作らなければなりません。英語教育やICTを含めた理系科目の充実是不可欠になるでしょう。第2に、企業、行政との連携です。企業や行政と一緒に学生を育てるスタンスを確実なものとし、本学が地域に不可欠な大学であることを県全体で共有すべきと思ひます。

さて、私の学長任期は2年で、今年の3月には本学を去ります。後援会の皆様方には、引き続きご支援、ご鞭撻を頂き、本学が持続的に発展することを心から期待しています。



輝ける忍ヶ丘(学生の成長)

保育科 探しつづけること、求めつづけること

この冬は宮崎市でも寒さの厳しい日が続き、冷えた手足を吐く息であたためたり、「寒い寒い」と学友たちと言い合いながら急ぎ足で講義室に入っていく学生の姿をよく見かけたりしたものです。桜は冬の寒さが厳しいほど春に咲く花の色味が美しいと言います。これは厳しい寒さを耐えるために木は樹皮を厚くし、そのことによって色素が濃くなるのだと聞きました。学生たちの成長していく姿にも似ていると感じます。この忍ヶ丘で学ぶ学生たちは、たくさんの「学び」の種をキャッチし、そこから生まれた様々な「問い」について自ら探求しつづけてきました。木が樹皮を厚くするように自分自身の中にたくさんの知識や経験を蓄え、枝葉を伸ばしています。花の色は一人ひとり違うでしょうし、咲くタイミングも、咲く花の数や形も違うでしょう。それを私たちは「美しい」と感じるのではないのでしょうか。その花だけを見ているのではなく、そこに至るまでの道のりをも愛でているからだと思います。

学生たちの「探しつづけ、求めつづける」姿を大事にしていきたいと心からそう思っています。



保育科長
後藤 祐子

保育実習にむけて

大きな不安を抱きながらこの宮崎学園短期大学に入学したのが、ついこの間のような気がします。短大生としての一年間はすごく短かったように感じます。この1年間で保育についての知識をたくさん学びました。体験実習にも何度か行きました。たった1日や2日だけでもすごく毎日疲れていたのに、二週間ともなるととても不安ですが、今まで習ってきた知識を十分に発揮し、保育実習の現場でしか学べないことをたくさん学んでいきたいと思います。保育者の言葉掛けや接し方などを特に学んでいけたらいいなと思います。緊張もすると思いますが、分からない事は質問をして積極的に学んでいきたいと思います。

いよいよ始まる実習に、緊張と期待で胸がいっぱいです。保育実習で子ども達と出会い、共に過ごす中で保育士としての基礎を少しずつ築いていきたいと思います。実習を通して、子どもたちの笑顔をたくさん見られるよう、私自身も笑顔で積極的に子どもたちと関わっていききたいと思います。



保育科1年
橋本 紗笑

専攻科 (福祉専攻) 周囲との調和を学ぶ介護福祉学

マスクとアルコールが商品棚から消えたのは、つい5年前の話です。その後も大地の揺れに怯え、地球温暖化に由る災害が後を絶ちません。戦いにおいては筆舌耐え難く、直ちに拳を下ろしてくれと願うばかりです。先行き不透明な時代に自分らしい生活を護るためには多様な備えと周囲との調和が必要であり、これらは福祉専攻科での学びに通じるものがあると感じます。

例えば「生活支援技術」の領域では、身体力学や生理機能の知識と共に介護をする側とされる側にとって安全で安楽な介護技術を探求します。また、複数の科目を横断させながら福祉の基盤となる尊厳について考え、励ましや労いあるいは言葉のないコミュニケーションであっても希望や安らぎが生まれることを実習先の利用者様から学びます。また、国家試験の合格を目指すチームとして団結し、エンパワメントされることを経験します。これら困難の先に獲得した達成感、人生の支えになってくれることと思います。

今後も学生一人ひとりの良さを引き出しながら、魅力ある福祉人材の育成に努めてまいります。



専攻科(福祉専攻)主任
桑迫 信子

充実した専攻科での1年間

私は保育と介護の両方で活躍できる人材になれるよう、専攻科への進学を決めました。思い返すと1年間は本当にあっという間で、専攻科生15名で「国家試験合格」という目標に向かって過ごす毎日はとても充実していました。

学内でコミュニケーションや生活課題に対する視点を学んだものの、実際の介護実習では会話の難しさや介護計画の作成など掛けそうになることもありました。そんな時こそ、学友みんなで支え合い最後までやり遂げることが出来たと思います。

困った時はいつでも相談できる先生方、温かい学友に出会うことができ、専攻科に入学して本当に良かったと思います。専攻科へ進学させてくれた家族にも感謝しています。3年間で学んだことを忘れず、4月からは保育士として子どもたちと一緒に成長していけるよう頑張ります。



専攻科(福祉専攻)
野崎 希音

現代ビジネス科 地域とともに成長するー現代ビジネス科の新たな一歩

現代のビジネス環境は急速に変化しており、デジタル化の進展やグローバル化の加速に伴い、求められるスキルも多様化しています。今年度、現代ビジネス科は教育の質を一層向上させ、地域産業界との連携、実習体制の強化等を進めるとともに、実践的な学びの環境を整えてきました。このような取り組みの成果として、今年度も公務員、大手金融機関、宮崎県内優良企業、国公立病院、医療機関など多くの分野で内定をいただくことができました。実務に直結したカリキュラムや、企業・行政機関との協働による実践的なプロジェクトの推進が、学生の成長に大きく貢献しています。学生たちは着実にキャリア形成の力をつけたと実感しています。

近年、ビジネスの世界は急速に変化し、多様なスキルや知識が求められています。そこで、学科内の教育基盤をさらに充実させるべく学科改編をすすめ、入学後のオリエンテーションから基礎分野・専門分野への橋渡しとなるカリキュラム整備に学科一丸となって取り組みました。スキルアップユニットも創設し、資格取得、大学編入対策にもより一層力を入れていきます。そして、令和7年度より、現代ビジネス科は時代のニーズに応え、新たに8つのコースを設置し、より実践的で多様な学びの機会を提供します。設置するのは、「ソーシャルメディアデザイン」「情報クリエイティブ」「観光・ホスピタリティ」「司書・オフィスワーク」「メディカルマネジメント」「経営・マーケティング」「異文化コミュニケーション」「グローバルコミュニケーション」の8コースです。これらのコースでは、現代ビジネスの最前線で求められる知識とスキルを学び、卒業後即戦力として活躍できる力を養います。

また、本学は引き続き、宮崎大学、宮崎国際大学、南九州大学と連携した「SPARC(地域活性化人材育成事業)」に参画します。令和7年度からは連携開設科目がスタートし、4大学の学生たちと共に学び、地域に根差し、地域に信頼される人材育成を進めます。

本学科は、これからも社会のニーズに応え、地域社会や産業界と連携しながら、時代に即した教育を提供してまいります。次世代を担うビジネスパーソンを育成する場として、より一層の発展を目指し、学生の成長を支援していきます。



現代ビジネス科長
黒野 伸子

医療機関実習にむけて

私は、この大学に入学してコミュニケーション能力が向上しました。

中学や高校と比べて先生と学生の距離が近く、良い関係を築くことができています。授業中에서도分からないことが質問しやすいので、理解が深まりました。勉強や大学生活で困ったことがあれば、気軽に相談できる環境もあります。以前は消極的だった私が今では積極的にコミュニケーションをとることができるようになり、それが自信につながっていると実感しています。また、友達同士の仲も良く、お互いに教え合うことで知識を深めることができ、楽しく学んでいます。

大学で得た学びを活かしながら医療事務への理解を深めるため、まずは2月にある初めての医療機関実習を頑張ります。



現代ビジネス科1年
松元 あずさ

地元に恩返しができる日を目指して

私は幼い頃から現在まで地元に住み続け、地域の方々に支えていただきながら成長してきました。この恩返しをしたいという思いから、地方公務員となって地域の課題解決や未来を築く事に貢献したいと思うようになりました。

宮崎学園短期大学に入学してから地域貢献に取り組みたいという思いは変わらず、今回、実践ビジネス演習という講義を通して、地域のために学生が主体となり、一から計画を立てて行動するという貴重な経験をさせて頂きました。具体的には、老人ホームを訪問し、詐欺対策防止をテーマにした寸劇や歌を披露し、高齢者の方々との交流を図る活動を行いました。私は寸劇のシナリオ作成と役者を担当し、チームの一員として責任を持って取り組みました。

この経験を通じて、地域課題への理解を深めるとともに、自分の行動が地域社会に貢献できることの喜びを実感しました。地元のために尽力する公務員として、この経験を活かしていきたいと考えています。



現代ビジネス科1年
伊地知 愛海